

令和3年度 第1回滋賀県環境学習等推進協議会 議事概要

日時：令和3年8月18日（水）15：00～17：00

場所：大津合同庁舎6-A会議室（オンライン開催）

出席：参加委員13名

事務局 環境政策課、琵琶湖博物館環境学習センター、教委生涯学習課

■議事（1）「第三次滋賀県環境学習推進計画」進行管理について（最終まとめ）

資料1に基づき説明：事務局（環境政策課）

委員：

○15 ページ「持続可能な社会づくりへの寄与」のところ、アウトカム指標を使っている。県政モニターアンケートにより意識が徐々に高くなっているということを見ているが、県政モニターアンケートは、全県域が対象だと思うが、地域別の結果はわかるのか。地域によって差が出てきているのであれば、意識啓発の課題が出てくると思う。

■議事（2）「第四次滋賀県環境学習推進計画」の進行管理方法について

資料2および参考資料1に基づき説明：事務局（環境政策課）

委員：

○5 ページ「（1）人材育成および活用」の評価方法に関して、目標達成度は各部局で評価するのか。また、目標は各部局で設定するのか。

→事務局（環境政策課）：

○部局ごとに目標を設定して、それぞれで評価する。目標の考え方は共有できればと思う。

委員：

○9 ページのアウトカム指標について、ほかの委員から地域別のデータについて質問があったが、おそらく年齢もかなり偏っており高齢の方が多いのではないかと思う。県政モニターは15歳以上に限定されていたと思うので、14歳以下が反映されていない。すぐには難しいかもしれないが、今後14歳以下の環境行動をどのように反映していくのか、これから議論していければと思う。

委員：

- 7 ページ「(5) 連携・協力のしくみづくり」で、「①ネットワークの登録団体等数」と記載されているが、ここでいうネットワークとは何を想定しているのか。

→事務局（環境政策課）：

- 令和2年度の実績から、琵琶湖サポーターズネットワークに登録されている団体数を想定している。

委員：

- 14 ページ「7 参考事例」とあり、今回から追加となっているが、何の参考か。

→事務局（環境政策課）：

- 毎年各課が行っている事業の中で、他の所属でも参考になる事例を紹介する。第三次計画では施策の体系別に参考事例を紹介していたが、第四次計画では、まとめて紹介したい。併せて、県外で行われている優良事例も掲載したい。

委員：

- 17 ページに SDGs と MLGs の関係性に関する資料が掲載されているが、見方について説明してほしい。

→事務局（環境政策課）：

- 15 ページで SDGs の各ゴールの関連事業数を掲載しているが、MLGs で見た場合はどうなるのかということ、来年度の報告書では、15 ページと同じようにグラフに表して報告したい。本日の資料2の16、17 ページは、あくまでも MLGs に関する参考資料ということで御理解いただきたい。

■議事(3)琵琶湖博物館 環境学習センターの事業について

資料3に基づき説明：事務局（琵琶湖博物館 環境学習センター）

委員：

- 相談件数やプログラムの実施回数、検索を増やすには、環境学習センター自体の認知を上げる努力、方法がもっと必要である。
- 登録人数やプログラム数は、単にホームページに掲載して数だけ増やせばよいというわけではないと思う。評価は掲載数ではなく、実際に活用された数だと思う。また、センターに相談をした先生方から意見を聞いたり、プログラムを受けた児童生徒から意見を聞いてそれを反映していくと、よりよくなっていくと思う。評価方法や広報方

法をもっと工夫していただきたい。

■議事(4) その他(ギアモデルのステップである「学ぶ」という言葉の使い方について)

参考資料2に基づき説明：委員

委員：

- 「学ぶ」という言葉には、広い意味での使い方と狭い意味での使い方が、言葉を使われる人によって意味するところが違うと考えられる。これに対して、ギアモデルの中での「学ぶ」は狭い意味での使い方であって、広い意味でとらえる人には違和感があるとのこと指摘を頂いたところ。

いただいたご指摘をもとに、ギアモデルのなかでの「学ぶ」は、広い意味でとらえられないよう、別の言葉に差し替える方向で議論していきたい。

委員：

- 「知る」がふさわしいと考える。気づいて考えるまでには、情報を収集して現状を把握し、知識を得るというプロセスがある。

委員：

- 「分かる」「理解する」がふさわしいと考える。「気づく」と「知る」は近い意味で捉える方が多いのではないかと感じる。今置かれている「学ぶ」のプロセス段階には、深く知り、腑に落ちた状態を指すのがよいと思う。

委員：

- 「理解する」がふさわしいと考える。「分かる」という言葉と似ているが、深く理解するという意味をとらえるには少し弱く感じる。

委員：

- 「知る」や「理解する」といった言葉は、前段階の「気づく」、後段階の「考える」に少々重複しているイメージがある。「学ぶ」という広い意味のままで良いと感じた。

時間の都合上、議論を中断。次回からも継続して「学ぶ」の定義についての議論を予定。